

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アートチャイルドケアSEDスクール吹田けんと		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 15日 ～ 2025年 10月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2025年 10月 15日 ～ 2025年 10月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験のある職員が多いため、一人ひとりのお子さまの支援について様々な視点で考えることができる。	毎月、職員一人ひとりの良いところを見つけ伝え合う取り組みを行い、それぞれの経験を活かせる職場の環境づくりに努めている。	それぞれの強みを活かしたスクール内での研修を行い、さらにより良い支援に繋げていく。
2	職員間での情報共有の時間を大切にしているので、どの職員もスクールに通うお子さま一人ひとりのことをよく知っており、丁寧な関わりに繋がっている。	日々のカンファレンスでの情報共有に加えて、職員間でプログラム作成時に相談し合うなど、お子さま一人ひとりの支援について丁寧に話し合いが行われている。また、支援会議では、職員全員でお子さまの支援について意見を出し合い、丁寧なアセスメントを行うことで、よりよい支援の提供に繋げている。	カンファレンスや支援会議に、今以上にそれぞれの専門性を活かして支援の方向性について丁寧に話し合っていく。
3	グループ療育や共同プログラム、季節の行事などで他児との交流を深める機会を設けている。	グループ療育の利用がないお子さまにも、他児との係わりが深まるように応じて共同プログラムを行っている。また、季節の行事では、同じ遊びや空間を提供し、他児との交流の場となるようにしている。	来年度はグループ療育の枠を増やしている。季節の行事についても、内容について検討し、保護者さまも含めた交流の場となればと思っている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・感覚調整遊具を設置しているときに、療育室の活動範囲が狭まることがある。	・安全な環境を整えることを意識して、お子様が楽しめる遊具の設置を考える。	・利用人数やお子様の年齢に応じ、安全な環境設定をする ・遊具を片付けた状態の広い室内での活動を取り入れ、新鮮な気持ちで遊べる環境を整える。
2	・利用者様の希望の日程に偏りがあるため、すべてのご希望通りにご利用いただけないことがある。	・保護者様のお仕事のご都合などにより、送迎が難しいため、ご利用日に偏りが出ている。	・イベントやグループの活動日を設けることで、ご利用できる機会を増やす。 ・祝日などを利用し、参加しやすいプログラムを設定し、普段と違う活動を楽しんでいただく。